

令和 2 年 7 月 1 日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13120

研究課題名(和文)イランの社会貢献活動から見る性別役割規範：女性が担う仕事概念の検討を通じて

研究課題名(英文)Study of Gender Norms by Social Contribution Activities in Iran :Examining Women's Role Concept

研究代表者

山本 明子(村上明子)(YAMAMOTO, Akiko)

北海道大学・経済学研究院・研究員

研究者番号：50735826

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：イラン女性の社会貢献活動を通して、現地社会における女性の役割やエンパワメントの実態を探った。

調査はテヘラン、アルダビール、カーシャーンで行った。コミュニティ、家族・親族をベースにした伝統的な慈善活動だけでなく、NGOによる新たな活動潮流についても検討を進めた。

現地における社会貢献活動は、教育機会の拡充や職業訓練の普及、女性の経済的エンパワメントの向上に寄与していることが確認された。また女性の就業支援について、NGOと政府との官民連携モデルが成果を上げていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

伝統的な慈善活動や新たな問題意識によるNGO活動など、イラン女性による様々な形態の社会貢献活動を観察した。それらの活動の動機を解明し、労働市場や家族・親族関係、コミュニティ文化、政策体系など、社会を形作る諸々の要素との相互作用を明らかにした。このような議論を通じて、イラン女性の「仕事」や「働き方」について、統計資料ではカバーしきれなかった領域を含めた包括的な視点を提示した。また国際比較可能なアンケート調査を実施することで、女性の活躍を広く議論するための素地を作った。

研究成果の概要(英文)：Through the social contribution activities of women in Iran, I examined the role and empowerment of women in local communities.

The survey was conducted in Tehran, Ardabil and Kashan. I examined not only traditional charitable activities based on communities, families and relatives, but new trends in activities by NGOs.

It was confirmed that the social contribution activities in local society are working to expand educational opportunities, spread vocational training, and improve women's economic empowerment.

Then, about employment support for women, I confirmed that the public-private partnerships by NGOs and governments was successful.

研究分野：イラン社会論

キーワード：イラン 女性 性別役割規範 社会貢献活動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現代イランでは、男女の役割がイスラーム・ベースの世界観によって導き出されている。これによって、女性には家庭での「良き妻」「良き母」として家族に貢献するような活動が期待されてきた。その反面、労働市場における女性就労は、統計上は低位に推移しており、例えばここ30年の女性の労働力率は一貫して15%前後の水準である。こうした状況から、イラン女性の「働き方」や「仕事」については周辺的な状況が強調されており、その実態を過小評価する嫌いがあった。つまり、イラン女性の実際の労働・仕事内容は多様であり、様々な領域で大きく貢献している。それにも関わらず、労働市場ベースでのアプローチでは彼女たちの仕事の評価に限界があったのだ。本研究の出発点には「イラン女性の働き方や仕事内容について、公式統計には十分に反映しきれていない活動があり、その評価が限定的なのではないか」という問題関心がある。

他方で、イランの社会秩序を維持し発展させていくための女性の活動としては、家庭における「母親役割」「主婦役割」といったこれまでの役割の延長線上にある要素が求められてきたのも事実である。しかし近年、イランの経済・社会状況に課題が多く、同国を取り巻く国際環境もますます厳しくなっている。こうした閉塞的な経済・社会状況は市民の生活を直撃しており、女性に求められる役割にも変化が生じている。したがって、稼得能力や稼得活動につながる技能形成、女性自身による就労女性へのサポートなど、これまでの役割規範に加えてさらに広範な女性の活躍が期待されている。このような女性の役割の変化(ないし再編)をサポートする主体として、個々人の意識向上と共にNGOの活動も注目されている。

このように、現在のイランは累積する経済・社会問題に対応するため、組織から個人に至るまで、多様なレベルでの社会貢献活動が期待を集めている。この分野に注目することで、イランにおける価値観・行動様式の構造化や女性の潜在能力の包括的な測定が期待される。

2. 研究の目的

申請者はこれまで、イラン女性の労働実態について労働市場論をベースに現地調査を重ねてきたが、仕事の範疇や活動領域を構造化するには既存の議論の枠組みでは不十分だと考えている。また、公式統計に即した視点だけでは、現地女性の多様な就業実態を理解することが難しい。これらの要因として、イラン女性が係わる労働の種類、時間、強度の実態と市場経済が想定する労働概念のギャップが大きいことが挙げられる。したがって、現地適切的な分析視角の提示は喫緊の課題と言える。本研究の目的の第一は、イラン女性が担ってきた「仕事」や「役割」について論点を整理することである。

また、本研究では非営利組織や社会貢献活動という切り口からイラン女性の活動にアプローチすることで、労働市場論ではカバーしきれない役割規範や社会的ニーズの実情を分析する。そして女性が関わる多様な社会貢献活動と政策体系との関連性も吟味する。活動の空間的特徴と関係者の個人属性、モチベーション、行動認識の包括的な検討を通して、ミクロの行動とマクロの動態がどのように作用し合っているのか明らかにしたい。このようにして、女性が関わる領域特有の要素について考察することで、議論の枠組みや労働概念の再検討を行い、イラン女性の仕事ないし役割に関して現地適切的な分析視角を提示する。

3. 研究の方法

以上の目的を果たすため、本研究ではまず、既存の研究動向や公刊資料の分析を行い、課題の背景の整理を十分に行った。主には()イランのマクロ経済動向、()非営利組織、社会貢献活動に関する全般的な議論、()イラン政府の関連政策体系、()イスラームの規範と慈善的な行動様式に関する議論、()イランや周辺地域に関するイスラーム・ジェンダー論の議論、()イラン女性の就学・就業・活動状況に関する実証的な議論 以上、6つの領域を中心に検討した。

これらを踏まえて、現地調査を行った。現地調査は、1)アルダビール州アルダビール市およびイスファハーン州カーシャーン市における互恵活動の検討、2)首都テヘランにおける女性支援を掲げたNGOの活動分析と女性支援策の検討 以上2つのテーマで継続的に行った。調査地について補足すると、アルダビール市はイラン北西部に位置し、トルコ語系アゼリーの住民が大半を占め、第一次産業を中心とした地域である。カーシャーン市はイラン中部に位置し、絨毯織りや陶磁器・タイルなど伝統工芸の生産が盛んだが、近年は豊富な観光資源を活かしたインバウンド観光の振興にも取り組んでいる。アルダビールもカーシャーンもイランの中では「保守的」な土地柄と考えられており、家族・親族関係を重んじる傾向が強い。両地域固有の事情のみならず共通の事象についても分析することで、議論の枠組みやイラン特有の概念についても検討する。

他方で首都テヘランは国内各地からヒト・モノ・カネ・情報が集まり、変化の最先端ともいえる地域である。ここでのNGO活動を検討することで、女性による女性支援策の最前線が明らかになるだろう。

具体的な調査方法だが、1)については、参与観察とインタビュー調査を、2)については現地NGOと共同でアンケートとインタビュー調査、そして関連政策の分析を行った。加えて、NGOのスタッフへの聞き取り調査も行った。

調査内容は、1)については、女性の親睦会への参与観察、家族・親族・コミュニティにおける彼女たちの役割と世帯の経済活動の関係(アルダビール市)、女性個人事業主とその家族への意識調査(カーシャーン市)をそれぞれ行い、また両市に共通する調査として、季節ごとに行われる宗教行事での活動についても参与観察を行った。2)については、NGOによる女性の起業家の支援内容と官民連携モデルの最新動向の把握、また実際に支援を受けている女性起業家への意識調査である。

なお、1)の調査については現地の大学や商工会関係者の、2)については笹川平和財団とイラン女性省の協力を得て行った。

4. 研究成果

まずは上述の1)アルダビール市およびカーシャーン市における互惠活動、2)首都テヘランにおけるNGOの分析 それぞれの主な成果を整理する。

1)では伝統的な社会関係をベースにした互惠活動が、経済・社会的に多様な機能を有していることが確認された。特筆すべきは、家族・親族ネットワークによる互恵的關係が稼働労働の場においても大きく作用している点であり、それはアルダビール、カーシャーンにおいて共通の現象であった。つまり、稼働労働を考える女性の発想として、「家庭責任との両立」ではなく、「家庭環境をフルに生かした就業状況」を導き出しており、それを家族・親族内の(特に)年長女性が後押しするケースが多かった。関連して、伝統的な生活様式を敢えて守ることに現代的な意義を見出している様子も様々な局面で確認された。親族・友人間の密な行き来や役割規範について、伝統に無批判的に追従するのではなく、社会の変化に合わせて「再解釈」しつつ実践する様子が見て取れた。また、伝統的な慈善活動の多くは、就学機会の拡充や福祉の向上に大きく貢献しているが、そもそも現地社会では、こうした慈善活動を前提として社会インフラが設計されている様子が見えた。

2)ではプロジェクト・マネジメントや起業家論などをベースにしたNGO活動が、基礎的教育や職業訓練など教育機会の拡充、ひいては女性の経済的エンパワメントに貢献している様子が確認された。加えて、イラン国内だけでなく、中東地域の中でも女性起業家の成功事例として高く評価されている事例も複数確認された。なお、このような華麗な成功例は元より、身近に存在する事業主や技能者などロール・モデルの存在が、イラン女性の起業活動に肯定的に作用している様子も明らかとなっている。他方で、政策支援全般への不満が高く、支援策があったとしても女性起業家たちがそこにアクセスするのは容易ではないことが分かった。このような制度上の間隙を改善するために、官民連携モデルへの取り組みが進められていた。

また、1)・2)の事例共通で得た知見として、フォーマル、インフォーマル、ノンフォーマルの各教育形態による技能形成とその相互作用が挙げられる。個々の家庭レベルでも見よう見まねの技能継承が広く行われているが、家事にしろ手工芸にしろ、秀でた技能を持つ者はコミュニティ内の評価も高く、技能継承の輪も自然と広がる。稼働労働に繋がる技能については特に需要が高く、組織化して効率的に継承されるように公的支援のあり方が模索されている。こうした中、NGOが媒介役として果たす役割は少なくない。官民連携モデルが期待される背景には、技能訓練の需要が高まっていることも影響している。

なお2)については上述の通り、イラン女性省と笹川平和財団の国際共同プロジェクト「女性起業家比較研究：イラン - 日本」に参加することで、日本とイランの国際比較研究が実現した。社会状況が大きく異なる両国ではあるが、日本との比較検討を通じて、イランにおける女性起業家へのアンケート調査、支援に関する政策体系の評価と改善策の提言などを行うことが出来た。本研究の学術的な知見の一部を、プラクティカルに活用できたことを強調したい。この成果については、2019年6月に書籍としてまとめた。そして、この成果についてはインドネシア政府機関(女性のエンパワメントと子供の保護省)も多大な関心を寄せており、日本・イラン・インドネシアの三カ国での新たな共同プロジェクトへと、取り組みが広がっている。それぞれの社会コンテクストに配慮しつつ国際比較可能な分析視角の提示が出来るよう、本研究の議論を更に深化させていきたい。

先に述べたように、本研究は「イラン女性の働き方や仕事内容について、公式統計には十分に反映しきれていない活動があり、その評価が限定的なのではないか」という問題関心が出発点となっている。イスラームに由来する社会規範のため、女性の主な活動場所は「家庭」であり、「仕事」や「働き方」について、彼女たちは「周辺的な要素」と捉えられがちであった。しかし、社会貢献活動という切り口からイラン女性の活動を観察することで、家庭や地域社会、職場、教育制度など様々な領域を包摂する形で、生活水準を向上させ社会を発展させるような女性の主体的な姿勢が確認された。本研究の成果は、「イスラームの性別役割規範を基に周辺的な位置に配置されている女性」の議論ではなく、「女性自身が積極的に選択し主体的に取り組んでいる社会貢献活動とそこでの役割意識」の実態と可能性に関する議論であることを強調したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 村上明子	4. 巻 NO.103
2. 論文標題 イランにおける女性就業の現状と課題：改善策としての「起業支援」が機能するためには	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 亜細亜大学アジア研究所アジア研究シリーズ	6. 最初と最後の頁 5-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 KAZUMI, T., Emrani, Z., MURAKAMI, A., Naghavi, Z., Mahmoodi, M., Heshmati, S., Tatsumi, K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Comparative Study on Women Entrepreneurs in Iran and Japan: Practice and Policy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sasakawa Peace Foundation Survey Reports	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上明子, ハサンザーデ モハンマド	4. 巻 6
2. 論文標題 イラン地方都市における家族経営の現在：アルダビールの事例分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北海道大学経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センター年報	6. 最初と最後の頁 95-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 KAZUMI, T., Emrani, Z., MURAKAMI, A.
2. 発表標題 "A Study on Challenges, Opportunities and Promoting Strategies of Women Entrepreneurs : Iran-Japan"
3. 学会等名 International Workshop on "Policy Dialogue on Women's Empowerment Project"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上明子
2. 発表標題 イラン女性の社会貢献活動：アルデピールの事例分析
3. 学会等名 アジア政経学会2016年度秋季大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 KAZUMI, T., Emrani, Z., Naghavi, Z., Mahmoodi, M., Heshmati, S., MURAKAMI, A., Tatsumi, K.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 The Sasakawa Peace Foundation	5. 総ページ数 142
3. 書名 Women, Entrepreneurship, and Economic Empowerment: A Comparative Study on Women Entrepreneurs in Iran and Japan	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----